

# 橋本 忠行

クライアントとの協働による、  
こころの理解と支援を目指して。

所

属/教育学部准教授  
人間発達環境課程発達臨床コース・  
教育学部研究科学校臨床心理専攻  
臨床心理士  
研究テーマ/治療的アセスメントに関する実証的研究  
わが国への導入における課題と対応



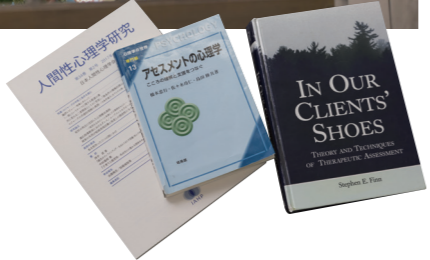
臨床心理学は、「人間の心理的適応・健康や発達、自己実現を援助するための、心理学的人間理解と心理学的方法を、実践的かつ理論的に探究する心理学の領域」(野島、1995)です。近年、保健医療、教育、福祉、司法、産業など多くの場でその重要性が認識され、来年には初の「公認心理師」国家試験が予定されていることもあり、特に注目度が高まっています。

橋本准教授の専門は、その中でも比較的新しい「協働的/治療的アセスメント」。これはアメリカ・テキサス州オースティンのフィン博士が開発した、「こころの理解と支援をつなぐ実践的な方法」です。伝統的な心理アセスメントでは、クライアントの問題や資質について面接・観察・検査等を通し査定がなされますが、そこにセラピーの要素を融合し、中でも心理検査結果についての話し合いを重視しています。

『「どうしてこんなに気分が落ち込んだんだろう?」「交際が長続きしないのは、私に何か問題があるからなんじゃないか?』といった個人的な問いを、クライアントは抱えています。そういった問いについて、アセスメントを通して一緒に考えていきます」と橋本准教授。客員研究員として1年間滞在した、オースティンの治療的アセスメントセンターでフィン博士から直接学んだことを、日本人

のパーソナリティや文化、そして臨床実践に適したものに調整するという重責を担うひとりで。

「抑うつ、不安といった情動、不登校や落ち着きのなさといった行動そして職場内での対人関係など、表面的には症状や問題の



①大学院生が作った箱庭を見ながら、会話の中に質問を重ねて、気持ちを聞きだしていく橋本准教授。どんな言葉にも肯定的姿勢で、作った人のこころを受け止めるような会話が続きます。  
②フィン博士の著書「In Our Clients' Shoes」、自身の著書「アセスメントの心理学」。そして、編集委員も務める日本人間性心理学会の学会誌「人間性心理学研究」。

姿をまもって現れてきます。しかしながらその背後にある本質やテーマは本当に個別的で、それらを深く理解するために幅広い種類のパーソナリティ検査や知能検査を活用します。例えば大きな失敗をした時、私たちはどのように感じるでしょうか。穴があいたら入りたい、誰かのせいしてみたい、あるいは頼れる人の側にいたい、と思うかもしれません。「恥」は日本人にとって重要な感情ですが、そこからの回復過程もそれぞれなんです。一人ひとりの違いを大切にし、問いへの答えを共に探求します」

現在、事例研究として慢性疼痛、社会的引きこもり、子どもと家族のアセスメント等に取り組んでいます。またリサーチとしては、クライアントからの満足度評価や、質的データを基にしたクライアントと査定者の相互作用の分析を行っています。

新設される医学部臨床心理学科では、「心理アセスメント」「人格心理学」「人間心理学」等を担当予定。「どんな人に臨床心理学を学んでほしいですか?」の問いには、「他者のこころの痛みを想像することができ、優しさを持った人」と、すぐに答えが返ってくる人になることを、あなたも目指してみませんか?